

【10月10日】

◆RAPAPORT 価格は Sukkot (仮庵祭) のため発表がない。

また、18日からはインドの Diwali を控え、市場は閑散モード。

◆アントワープ世界ダイヤモンドセンター(AWDC)が発表したデータによると、米国と香港の2大市場への出荷が減少を続けたことから、9月のベルギーの研磨済ダイヤモンド輸出は11億9,000万ドルとなり前年比は4%減少した。

◆Alrosa、再びNew York を視野にAlrosaは2016年以降有効に機能していなかったNew Yorkの Tradinf Officeでの事業再開を計画しているとの事。

「米国は世界最大のダイヤモンドジュエリー消費市場であり、原石販売

ダイヤモンド市況概況

だけでなく研磨石販売にも興味を持っている。」と Sergey Ivanov 社長は述べた。

◆9月のダイヤモンド価格下落、第3四半期の RAPI™ (1ct) は-2%。

9月のダイヤモンド価格は、サプライヤーが古い在庫を処分をしたため軟化。

9月の香港ジュエリー & ジュエル・フェアでは取引が正常に戻り、低価格帯の需要が堅調であったため市場心理が改善した。

1ct の The RapNet Diamond Index (RAPI™) は、9月に-0.7%、第3四半期には-2%と下落。

また、年初からは-4.5%、過去12か月では-7.4%の下落となっている。

Rapaport® Diamonds.net等より一部抜粋

ジュエリーの新しい魅力を伝える ティファニーの期間限定ストア

「ティファニー ハードウェア」コレクションの着想源、ニューヨーク・ダウンタウンのストリートを再現した期間限定ストアが、10月20日～11月5日、東京・表参道エリアのイベントスペース、パツアートギャラリーでオープンする。

NYダウンタウンかのような臨場感あふれる一階の空間にジュエリーが展示され、二階には、「ティファニー ハードウェア」を始めとするアイコン的なファッションジュエリーを自由に組み合わせさせてスタイリングを自由に楽しめるスタジオを用意。複数のジュエリーの重ね付けなど、ジュエリーのパーソナルで

新しい魅力を伝えるほか、自由にスタイリングした自分の写真を撮影できるフォトスポットも設けている。加えて、東京のファッションをリードする様々なインフルエンサーがティファニーと一緒に盛り上げる、数々のスペシャルイベントも予定している。



TiCTAC



世界中に300以上の

店舗を展開するイギリスのライフスタイルブランド「テッドベーカーロンドン」の時計ラインからTiCTAC先行モデルが発売された。同モデルは、2017年AWシーズンで用いられたオリジナルプリントの「チェルシー」を替えベルトに採用。ローズゴールドのケースに淡いフラワープリントが上品でシックな印象。価格は2万1000円+税。

G-SHOCKコンセプトショップ

ベスト販売が新宿にオープン 時計正規販売店のベスト販売が、9月29日、東京・新宿にG-SHOCKオンラインショップ「G-SHOCK CONCEPT

SHOP「EDGE」by ISHIDA」をオープン。2018年にブランド生誕35周年を迎えるのを機に、よりG-SHOCKの世界観が体感でき、日本国内外に広く情報発信するキーステーションとなる店舗を目指す。

ULTRA Neo PAT Japan-USA China CPC 金具のないネックレス

Woody Bell 特殊な修理を得意とする



中国陶磁の中でも稀少な汝窯 約42億円で落札し、世界記録!!

サザビーズ香港

を受け、約30億円であっという間に上がった。最後は緊張した空気の中で20分の時間をかけて世界記録へと到達したとされた。

多くの人が関心を持つ汝窯は、今から1000年ほど前、北宋時代に皇帝用せいでじっせんが、約29億4300万香港ドル(約42億4800万円、14.4円/香港ドル)の高額で落札された。

この作品は、中国陶磁の中でも非常に稀少とされる汝窯で、同様の作品は故宮博物院、英国大英博物館などに収蔵されている。現在確認されている個人所蔵品は4点しか存在していない。オークションはおおよそ12億円からスタートし、会場と電話により多くの入札

世界の名画を堪能できる 約1000点が集まる 「秋の大絵画バーゲン」



棟方志功 「花深処松園」 横画 画寸26.5x23.5cm 756万円

大丸東京店の名物：現代アートと、世界の名画を購入できる催事「秋の大絵画バー

ゲン」が、10月18日～24日に11階の催事場で開催される。時間は10時～20時(木・金・土曜日は21時まで)。初日のオープンは正午となっている。

同催事には、世界の扉を開いた三作家(棟方志功・千住博・藤田嗣治)をはじめ、明治・大正・昭和を生きた近代日本画巨匠作家、そして国内外で人気のある有名作家の多彩なコレクションが登場する。日本画・洋画・版画・

路傍のカナリア36

政治的混沌の底にある 「いつか見た光景」

今我々の目に見えられている民進党解体和希望の党台頭を巡る状況は誰が、どうにでも論ずることができるといふ意味では、まさに百家争鳴、いや千家争鳴と言わなければならないが、私もその一家として凡庸ではあるが、気になったことを指摘して置きたい。

なんとと言っても希望の党が公認を与える上での踏絵と言わなければならない。安倍法制賛成の条件を民進党の前議員たちがあっさり受け入れたという事実の「不思議」である。今はもう希望の党の幹部の位置にある細野氏にしても当時の民進党政調会長として廃案を目指していたのだから、この議員たちの「変節」はどう理解したらいいのだろうか。

私達はこの「変節」を嘆

BICO・GHI株式会社 エムシージーマネキン紹介事業部

また、嬉しいニュースが飛び込んだ。今年のノベル文学賞に、世界的ベストセラー作家、5歳まで長崎で育った、日系英国人ノボイ・シゲロが選出された。彼は、文章の鬼、文学の鬼、文学の鬼だ。さてそろそろ、心のなから「疑心暗算」の鬼を退治してはならないか。鬼が尻尾を巻いて逃げ出す、うまい方法はある。

事も、怒る事も、あきれ返る事も出来るけれど、それよりもむしろこのように「変節」してしまえることの「不思議」の方が大切に思える。もしもこの総選挙において希望の党が出て来なければ、彼らは民進党議員として相変わらず「安倍法制反対」を唱えていたに違いない。だから彼らにとっては政治的信条などというものは、つけて売り渡してはならない政治家としての生命線では勿論なく、政治の世界を生き抜くための道具立てということになる。本音を言えばどっちでもいいのである。今日は民進党で反対。明日は希望の党で賛成。国家の安全保障というまさに国会議員としての見識が問われるフィールドにしてこの有様は、議員不信、政治不信そのものと言いたい所だが、どこかで我々も同じ光景を見ている。

1945年8月15日一夜にして「鬼畜米英」も「一億総火の玉」も「徹底抗戦」も消え、「民主主義」万歳を唱え始めたのはまさに他ならぬ我が国民であった。あの時何が起こったのか、日本人の心中にあった「鬼畜米英」への激しい熱情はなぜ消えたのか、いやなぜ消えてしまうことが出来たのか。もしも

鬼がゆく

鬼とは、「人か、神か」。人である。答えは、神ではなく、人である。鬼は、平安鎌倉時代に生まれた。黒澤明監督の映画「羅生門」で、渡辺綱が鬼を退治したのは知られている。鬼は、悪の化身だ。だが、悪だけではない。いい意味にも使われる。鬼嫁といえど、まあいい意味でないが、仕事上の鬼とか将棋の鬼といえど、むしろいい意味となる。どちらにも使われる。ところで鬼は、「男か、女か」となる。通婚する制度が当たり前のようであって、男が女の家へ通った。ところが、いつの世も男は浮気者で、すぐ他に女をつくる。悪い男は、すくなく「わたしこそが妻」と、女房に嫉妬心が起る。この嫉妬心が募りに募り、凄まじい憎しみとなり、怒りに変わる。くる日もくる日も、男の後をつける。女の家の見張る。森を越え、竹藪を走り、叢に身を隠し、後をつける。見張る。雨の日も、風の日も、雪の日も、晴れの日も、やがて顔は、憎悪に醜く歪む。眼は、メラメラと炎と化し、髪は、バサバサとなり、ボウボウ伸び放題。口は、左右に大きく裂け、歯は、牙と化す。村人たちは、その異様な姿を見て、「あれこそ、鬼だ」と、叫ぶ。そして鬼は誕生した。鬼

高野 耕一



No.330

は、人の心に棲む」と看破したのは、釈尊だ。仏法10界論六道のうちの四悪、修羅、畜生、餓鬼、地獄の、「餓鬼」だ。下から二番目。なんでも欲しが。他人の物でも欲しが。餓えた鬼。畜生や修羅以下。それが、だれの心にも棲んでいる。だれでも「鬼になる」ということだ。また最近では、ちよつと質のちがう鬼が世の中にはびこっている。疑心暗算という鬼。人を疑う。あらゆるものに疑いを抱く。信じられない。インターネットの普及により、マスコミュニケーションとパーソナルコミュニケーションの壁が崩壊したことが最大の要因だ。個人の意見や考えが一瞬の稲妻となつて世界を走る。無記名の無責任の意見や考えが、善悪の検証なしに垂れ流して、世界に伝播する。大手企業のブランドが、瞬時にして、嘘か本当かわからない個人の意見で破壊される。先日、衆議院が突然解散された。各政党があたふたし、各国会議員があたふたしと大騒ぎだ。この騒ぎを利用して、思わぬやりや策略を弄する不逞者がいて、真偽の情報が交錯するから、国民はもう、「なにが本当かどれが嘘か、まるでわからぬ。信じられない。選挙は国民が参加する唯一の政治活動」ともいえる。国会議員は、国民の代表。国民そのものだ。なのに、その国民を手足に

取つて弄ぶ。人々の心の鬼は、大手を振つて闊歩する。とんでもない鬼の時代だ。かと思つた、片方いい意味の鬼が登場した。将棋の藤井聡太だ。「4000年一人」という、天才のなかの天才。将棋の大鬼だ。こんな人々に夢と希望を与える鬼は、めったにいない。藤井のともない才能を見抜いた師匠は、将棋を教えだつた。さらに興味を恐れた。師匠のこの判断が見事だ。さらに興味深いのは、この師匠、藤井に、機会あるたびにブルースリーの映画、燃えよドラゴンを観せた。映画のなかでブルースリーが言う、「ドントシンク、フィール」(考えるな、感じる)。これが凄い。藤井は、しびれた。この言葉の裏にある、最後の最後まであきらめず、必ず相手が自らミスをする。それを見逃すな。藤井は、鬼と

(たかの耕一:tagayasu@xpoint-plan.com)

心の底から徹底抗戦の思いにとらわれていたなら、ゲリラ戦もあつただろうし、武装解除も簡単には進まなかつたろう。が、そうはならなかつた。

誰かが国民全体の総転向を「証人のいない風景」と呼んだが、あの「不思議」と今の「不思議」はもろもろ通底している。民進党議員の変節に散発的な批判はあるにしても、押し寄せるような国民全体の怒りが湧きあがらないのは、もちろん彼らが我が日本人の写し鏡であるからに他ならない。いかに声高に政治的スローガンを叫ぼうとも、叫ぶ本人も聴いている有権者もお互いに信じ

て振る舞っているだけという事なのだろう。いやこうも言える。スローガンよりも世話になった、ならなかつた娑婆の人間関係こそ最優先なのだ。政治とは、選挙とはそういうもの。結局のところ日本の政治は何事かを積み重ねてきたように見えて内実は虚ろなのだ。戦後70有余年、民主主義は根付いたように見えるけれども一夜明ければ、左右を問わず全体主義がこの国を覆い、メディアがこごぞと煽り大衆が異端者をつるし上げる風景が再び現れるかもしれない。戦後の「不思議」を考え抜くことなしに、日本の政治が変わるとはとも思えない。

貧骨

cosmoloop.22k@nifty.com

Grand Seiko advertisement featuring a watch image and text: 世界の審美眼を挑発する。Grand Seiko